

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表： R8年 2月 7人回答/8人中

無回答あり

事業所名 郡上市南部子ども発達支援センターひまわり

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	1	6	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんの成長発達に応じた遊びを考えた時に、部屋の狭さが影響し遊びが限られてくるので、部屋の模様替えや、必要な題材や遊具の入れ替えをおこないなるべくその子にあった遊びができるようにしている。 ・個別での活動時は個室に分かれ机上活動に集中出来るので良いが、運動遊びをしたくてもホールを使う曜日が限られている為、使用出来ない時は思い切り身体を動かす活動がしにくくもなかなか難しい。子ども達の発達支援の基本として身体を使った遊びを通してボディイメージや体幹を整える活動が重要だが、1番大切な活動をする為のスペースが限られているのがとても残念。天気の良い日は中庭のスペースを使ったり廊下にサーキットを組んで身体を動かせる様、それぞれの職員の方々が工夫してみえるが、静かに机上活動をしたと思って活動している利用児にとっては刺激になってしまうので、出来ればもっとホールのスペースを使えると有難い。 ・部屋が足りないなので、放課後等デイサービスを毎週でなく、月2回にしても持っている。 ・ホールを使う日が少ないため、運動発達を促すような活動ができない 廊下などに遊具を設置するなどして工夫しているが、安全面を考えると適切ではない。 ・保健センターを利用している事業の中で他施設(青少年センターなど)を利用できる事業は活動場所の変更などしてもらい、療育施設としての機能が果たせるようになると良い。 ・部屋が確保できない時にはペアやグループ指導等で対応している。ホールを使用することができない日があり、行いたい活動ができないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホールについては、関係課と協議の上、利用可能日を確保していく必要がある。 ・できる限りの工夫をおこなっているが、やむを得ない場合は保護者の理解や協力を得ながら臨機応変に対応していく。
	2	職員の配置数は適切であるか	5	2	<ul style="list-style-type: none"> ・現段階では、職員の人数に合わせた療育利用日数になっているので、職員数の不足からサービスの低下にならないようにしたい ・サービスを必要としている利用児童が多く、四枠ある指導が全て埋まっている職員の方も多く、指導の準備にかけられる時間も指導と指導の間の10分程度の為、一人ひとりに合った活動を準備してあげたいと考えても、そこにかけられる時間がとても少なくもどかしさを感じている方も多いと思う。指導に加え、園訪問や支援計画の作成、PT、STの計画を立てたり等、複数の業務を兼ねながら指導をされている先生方が多く、登録保育士の先生方をお願いしなければ難しい事もある。 ・利用する子供の数が増えてきている上に、さらに相談窓口になっている、入所の手続き、園との連携のための園訪問、家庭と園とセンターの連携を図る支援会議などが子供の人数が増えることになり、職員の抱える仕事量が増えてきている。 ・人員不足。全体的に疲弊していると思う。 ・職員は足りない状況が続いており、特に学童は月2回の指導回数で保護者に納得してもらい進めている。 ・職員の勤務体制により、療育の受け入れが難しいことがある。職員が不足する場合には、登録保育士に依頼をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務分掌を特定の人に固定化せず(偏らせず)、必要に応じて見直す。 ・必要に応じて自分の事務分掌以外にも協力し合いながら業務を進める。
	3	療育指導室は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	6	1	<ul style="list-style-type: none"> ・特性のあるお子さんを健診や遊びの教室で、保健師さんと療育が繋がりがりやすことはいいが、施設の利用状況で、体をたくさん動かしたいが、広い部屋が保健センターと共有で、使いたいときに使えないことも多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児の特性に配慮しながら環境を整えていく。 ・わかりやすい環境設定を継続していくために、定期的に点検を行う。

	4	療育指導室は、清潔で心地よく過ごせる環境になっているか。また、子どもたちの活動に合わせた空間になっているか。	6	1	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんが過ごすスペースでは、興味を持てることや自由度が高く行動を自ら選択できる空間になるようしている。 ・指導が始まる前の朝と、昼休憩と午後からの指導の間に、職員で掃除をしている。 ・指導の状況や職員の数によって、十分に掃除ができないこともある。 ・清潔で心地よい環境にはできていると思う。 ・活動面では活動場所に制限があり個々に合わせた空間にはなっていないこともある。 ・また、小学生の利用が増え、トイレや机、遊具等、年齢に合っていないものがある ・毎日掃除をし心地よく過ごせるよう心がけている。 ・月1回職員による安全点検を実施しており、改善が必要な箇所については早期に改善するようにし、安全で心地よい環境となるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全や衛生面での対策は引き続きおこなう。 ・子どもの状態や特性、年齢等を見極めながら活動内容を工夫していく。
業務改善	5	必要に応じて子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか	6	1	<ul style="list-style-type: none"> ・動きを求めているお子さんについては粗大遊具を使った遊びをおこなったり、グループでは広い部屋を使うようになっている。 ・個別での活動に使用出来る部屋はあるが、保護者との懇談などの際に使用すると個別活動が行える部屋が少なくなる為、保護者との話し合いの時には保健センターの部屋をもっと活用させていただけると子ども達が活動に使用出来る部屋を確保出来ると思う。 ・保健センターとの共有している場所は曜日や時間によって使用できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの状態や特性を見極めながらグループやペアで行うなどの工夫をしていく。 ・過敏さのある児に対しては現状のように指導時間に少人数、または単独で指導をおこなえるよう配慮する。
	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画しているか	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・共有する機会を作ることで、意識が向くのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての事業にすべての職員が関わっているわけではなく、わかりにくいので、報告を意識できるようにしていく。 ・職員の参画意識を高めていく。
	7	保護者等向け評価表により保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	7	0		<ul style="list-style-type: none"> ・紙面、ホームページ上で評価結果を公表していく。 ・ご意見があれば、スピード感をもって対応していく。
	8	職員の意見等を把握する機会等を設けており、その内容を業務改善につなげているか	6	1	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会を実施し、各事業について振り返りを行い、課題検討等を行い業務改善につなげている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・責任者会・職員会等で意見を伝えられる場の確保をしているが、日頃から気づいた点を伝えあい、よりよい改善につなげている。
	9	事業所職員向け自己評価表及び保護者等向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	6	1	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示してある評価表に時折目を通すようにしており、常に保護者の思いを意識しながら療育に向かえるようにしている。 ・利用者へ配布、事業所内に掲示、ホームページにて公開している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市のホームページ上で公表を行う。
	10	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	5	2	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の方が入った運営委員会をのような組織があると思う。 ・わからない 	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価体制の整備を検討する。 ・発達支援センターの業務や療育について知識や経験のある人に依頼していく。
	11	職員の資質の向上を図るために研修の機会が確保されているか	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な勉強が出来る機会があり、自分の知識を深めていける有り難さを感じる一方で、平日に開催されている研修会には興味があっても指導が入っておりほぼ参加する事が難しい。 ・研修会を年3回実施して、資質向上を図っている。外部開催の研修会等に参加した際には、報告書を作成し回覧するとともに、職員会で報告を行い、職員間での情報共有を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験や職階に応じた外部研修の参加や研修参加回数をなるべく平等にした研修参加を推進する。 ・研修内容は職員間で共有し資質向上に努める。
	12	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで通所支援計画を作成しているか	7	0		<ul style="list-style-type: none"> ・児の状態像を的確に把握するように努め、関係者と連携して支援計画に反映させる。 ・様式や作成方法の見直し、改善は適宜おこなっていく。
	13	通所支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか	7	0		<ul style="list-style-type: none"> ・児の状態とそれに対する課題を児発管と担当者間で正確に把握できるよう努めていく。 ・児の成長発達を鑑み、最善の支援方法や適切な関わりができるよう職員間で共通理解を図る。
	14	子どもの適応行動の状況を標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや日々の行動観察を含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認できているか	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・発達検査、感覚プロファイル、TASPで把握している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達検査を基本に必要な児については感覚プロファイル、TASPなどを用いた検査により把握する。

適切な支援の提供	15	通所支援計画には、児童発達支援及び放課後等デイサービスガイドラインの「児童発達支援、放課後等デイサービスの提供すべき支援」「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源について把握しておく。 ・引き続き、関係機関との情報共有と相互理解による途切れのない支援に努める。 	
	16	通所支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・児のニーズに合わせた計画を作成する。 	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の担当している児童の様子を伝え、どんな活動を行うと良いか等、アドバイスをいただいたり、指導に使用する教材を用意していただいたり、自分だけでなく色々な方に助けていただきながら子どもと向き合う事ができ、有難い。しかし、どの先生方も指導や業務が多く、ゆっくりと子どもの様子を話し合える時間を確保する事がなかなか難しい。 ・ペア療育、グループ療育では、活動の計画をチームで行うことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動では、指導員の役割分担を大切にしていく。 ・指導員や児発管と指導内容について交流しながら進める。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・子供さんの興味のあることを中心におこなっているが、そこから子どもさんの興味が広がるような遊びを考えている。 ・子どもの状況に応じてプログラムを柔軟に対応できるよう気をつけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児の状態に合わせた適切な活動となるよう職員全員で指導方法や関わりについて共有している。 ・理学療法士相談等でアドバイスされた活動を取り入れている。 ・季節に合わせた活動を取り入れている。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる通所支援計画を作成し、支援が行われているか	7	0		<ul style="list-style-type: none"> ・児のニーズに合わせた計画を作成し、療育を実施している。
	20	支援開始前には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・どの先生方も、とても話しやすく相談したりアドバイスをもらう事ができ強い。 ・個別支援が多いが、ペア療育の時は指導員間で相談、確認をしている。 ・もう少し時間にゆとりがあるとよりしっかりと相談、計画ができると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼にて打ち合わせを行っている。予定と共に配慮事項についても共有をしている

関係機関や保護者との連携	21	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点を共有しているか	5	2	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返ることができる場合とできないときもあるが、療育内容やお子さんのことについては、指導室で話さず、なるべく職員室で話し、職員全員で共有することが大切だと思っている。 ・自分が指導後に疑問に思った事や振り返りたい事などを個人的に相談させていただいて、勤務時間の関係もあり自分が一方的に質問させていただくばかりで他の児童についての様子を共有する事が難しい。 ・勤務時間、曜日の違う職員もいて、支援終了後に打ち合わせをすることはできないが、気づいたことや引き継ぎ、変化や成長をお互いに話して共有できるように努めている。 ・話す時間がゆとり取れない。相談内容などを文章に残しておいて、時間のある時に相談したりしている。 ・職員間で振り返りはしているが必ずではない。必ず行うことは、時間的に難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の確保や伝達手段を工夫しながら共有しておく必要がある。 ・児や保護者について気になる様子があった場合には、児発管を中心に職員で共有し、対応について考えることができています。
	22	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・療育時間内に、保護者の協力のもと記録をとっており、その日に保護者へ記録を渡すことができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導の記録は、療育後の30分の時間を使って記録と懇談を行うようにしていく。 ・支援について迷い等がある場合は、職員間や児発管と共有し、次回の指導に生かせるようにしていく。
	23	定期的なモニタリングを行い、通所支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか	7	0		<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員と一緒にモニタリングを行うことで、対象児に関するより多くの情報を得られ、また、見直しの是非も判断しやすい。
	24	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインなども職員全体で確認をとる時間が持てるとうよと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの状態に合わせ、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性、認知・行動、健康・生活、運動・感覚から必要な活動を組み合わせながら行っている。
	25	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	7	0		<ul style="list-style-type: none"> ・児発管、療育担当者等が参画している。
	26	母子保健や子育て支援等の関係者や関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健(保健師)とは、健診や遊びの教室で連携ができています。子育て支援等の関係者とは、要支援家庭について連携ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健では、健診、遊びの教室等で連携し、早期療育を促進する体制ができています。子育て支援関係部署である児童家庭課とは要支援家庭に関する支援について連携している。
	27	並行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。またその際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の支援会議を行い情報共有し相互理解を図っている。 ・年2回、保護者同席のもと、保育園、幼稚園、認定こども園、学校、特別支援学校と発達支援会議を実施している。年度末には、引き継ぎ会も実施し、スムーズな移行に向けて連携を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、情報共有と相互理解による途切れない支援に努める。
	28	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)母子保健や子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて会議をおこなっている。 ・直接担当していないので、くわしいことはわからない。 ・対象児について、ケース会を実施し情報共有や課題検討等を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員(医療的ケア児コーディネーター)を中心に担当者会や支援会議を定期的に行い、各所の指導や支援について共有している。
	29	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・その努力はしている。 ・対象児のリハビリ見学を実施。療育での受け入れについてアドバイスも受けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医師との直接的なやり取りは必要時のみだが、PT等の医療関係者と連携している。
	30	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	6	1	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、発達障害者支援センター実施のペアレントトレーニングに通所児の保護者と職員が参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通所児が利用中の放課後等デイサービスに訪問し、児についての共有ができた。
	31	自立支援協議会児童部会や地域の子ども・子育て支援会議等へ積極的に参加しているか	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・くわしいことはわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会児童部会においては、地域の課題を把握し、関係機関と情報共有や連携ができています。 ・子ども子育て支援会議に関しては、必要に応じて参加をしている。
	32	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・母子療育の方は、指導中も保護者の方とお話をしながら最近の様子や悩み、成長を感じた事など伝え合いながら共通理解する事が出来ている。お迎えにみえた際に保護者の方となるべくその日の様子などを伝えられる様配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導後、送迎時に子どもの状態を共有し、共通理解を図っている。
	33	保護者の対応力向上を図る観点から保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っているか	6	1		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の需要度によっては今後のペアレントトレーニング実施を検討する。
	34	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	7	0		<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧にわかりやすく説明するように努めている。

保護者への説明責任等	35	通所支援計画の作成をする際には、子どもや保護者の意思尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか	7	0	・モニタリング時に子どもや保護者にニーズを聞き取り、通所支援計画の作成に反映させている。	・子どもや保護者の意思を尊重しながら最善の支援方法や適切な関りができるよう意向を確認していく。
	36	児童発達支援、放課後等デイサービスガイドラインに基づき作成された「通所支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から通所支援計画の同意を得ているか	7	0	・直接関わることがなく、わからない。	・支援内容を具体的に説明し、同意を得られるように努める。
	37	定期的に保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	7	0	・支援会議やモニタリングをおこなっていることで、保護者の方の思いを確認する機会になっているので、そこで保護者が求めてみえた時には、相談を受けていけるような姿勢で取り組んでいる。 ・保護者の方からの相談で自分だけでは判断が難しい事などは、他の先生方にもアドバイスをいただきながら話し合えるよう心掛けている。	・モニタリング時を基本として、その他随時相談に対応できる体制を整えている。
	38	保護者会の活動の支援や保護者同士の連携を支援しているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか	5	2	・今後保護者会が確立していくように定期的に集まりを考えていきたい。その中で兄弟同士が触れ合えるような機会を設けていけるとよい。 ・親の会を設けている。 ・保護者会の活動を支援し連携を図れるよう努めている。 ・12月にセンター主導で保護者会を実施予定。	・今年度保護者会を実施し、保護者同士の交流の機会をもつことができた。
	39	子どもや保護者からの相談や申し入れ等、対応の体制を整備するとともに子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	7	0		・モニタリング時を基本として、その他随時相談に対応できる体制を整えている。
	40	定期的に通信等を発行し、活動概要や研修報告、行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	7	0	・毎月通信を発行しいろいろな情報を提供している。 ・今年度、郡上市ホームページによる定期的な情報発信を開始した。	・毎月の通信にて活動概要や研修報告、行事予定、連絡体制等を発信している。 ・緊急の連絡はすぐ一にて行っている。

非常時等の対応	41	個人情報の取扱いに十分注意しているか	7	0	・十分気を付けているが定期的に具体例を出しながら職員間で意思統一をしていくことが重要に思う。	・注意しながら取り扱っているところではあるが、その都度取り扱いについて確認する機会が必要である。
	42	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7	0	・常にその努力をしている。	・言語以外にも身振り手振り、写真、絵カード等も用いながらコミュニケーションのとり方を工夫していく。
	43	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を行っているか	0	7	・通所児童の保護者の方も共働きの方がほとんどだったりと、なかなか行事を行う事が難しいように感じる。	・地域を把握し、できる活動があれば一緒に行うことを検討していく。
	44	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに発生を想定した訓練を実施しているか	6	1	・避難訓練の実施している。県の社会福祉協議会より防災に関するDVDを借用、職員で鑑賞し、訓練の必要性等について再確認できた。	・職員会等でマニュアルを確認する。 ・通所開始時には保護者にも提示し、周知する。 ・災害を想定した避難訓練をおこなっている。
	45	業務継続計画を策定するとともに非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	7	0	・話し合う機会はあった。	・業務継続計画は策定済み。 ・避難訓練は定期的におこなっている。
	46	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	7	0		・服薬については、原則発達支援センターではおこなわない。 ・てんかん発作時の対応について研修をおこなった。
	47	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示所に基づく対応がされているか	5	1	・親さんには確認をとっている。	・保護者に確認し、対応している。
	48	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分にされた中で支援が行われているか	7	0	必要な研修や訓練は受けているが、起こることは完全には避けられない。小さなことでもなにかあったときは報告し、共有して対応している。	・安全計画の周知が必要である。 ・ヒヤリハット事例を共有し、安全管理に努めている。
	49	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有されているか	5	2	・そのような事例があった場合は職員皆で情報を共有している。 ・ヒヤリハットは、職員会で毎月報告、共有している。事例集は未作成。	・ヒヤリハット事例集の作成は令和8年度の課題としていく。 ・引き続き、職員会でヒヤリハットについて報告、確認、共有していく。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等の連携が図れるよう安全計画に基づく取り組み内容について家族等へ周知しているか	4	2	・わからない。 ・緊急時の連絡先を各家庭より報告してもらい、名簿を作成している。	・第3緊急連絡先の把握、個別の避難方法について職員間では共有している。 ・安全計画の周知をおこなっていく。
	51	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	7	0		・引き続きチェックリストを活用し、虐待防止の意識付けを行なう。 ・年1回、権利擁護についての研修会を開催、受講する。
	52	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上で通所支援計画に記載しているか	7	0	・毎年、虐待防止、権利擁護にかかわる研修を実施している。	・現在、対象者はいないが、どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上で通所支援計画に記載するという一連の流れを職員が理解しておく必要がある。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。